



# 四国ディスカバリー

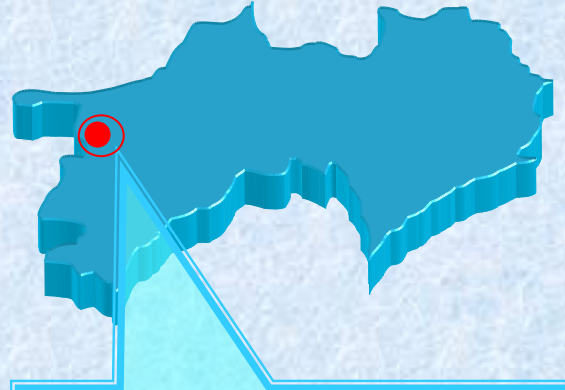
～愛媛県八幡浜市の酒蔵で地方創生を熱く語っていただきました～

## ◆川亀酒造合資会社の紹介

四国西の玄関口・八幡浜港、全国有数のブランドみかん産地、トロール船団漁業、八幡浜ちゃんぽん、じゃこ天で有名な八幡浜市で川亀酒造は酒造りをしています。

八幡浜市は水田が少ない街ですが、隣町の西予市宇和町や全国各地の酒造好適米を用い、蔵前を流れる五反田川の伏流水で仕込みを行っています。

創業から今日まで、「小さくても品質にこだわりを持った特徴のある蔵元でありたい」という想いを大切にされているそうです。



名称	川亀酒造合資会社
所在地	愛媛県八幡浜市五反田2-4-1
設立	1899年(明治32年)
代表者	二宮 靖(代表社員)
従業員	2名
資本金	5百万円

## ◆代表者：二宮 靖さんの紹介



愛媛県八幡浜市出身

大学院で遺伝子工学を学んだ後に実家の川亀酒造に戻り、それまでの伊方杜氏(愛媛県伊方町の杜氏集団)に代わって自らが中心となり、酒造りを行っています。

**「自分が飲んで美味しいお酒を造りたい」という想いで試行錯誤を繰り返し、酒造りから経理業務、ラベル貼りまで全てをこなしているスーパーマンです。**

実家や他の蔵元で酒造りの修行をしたわけではなく、独学で酒造りを始めたそうです・・・(驚!)

## 酒造りを始めた頃の話をお聞かせください

父の代までは季節労働者である杜氏集団に酒造りを任せていましたが、平成13年からは、私が中心となって社員で酒造りを行うようになりました。

あの頃は大量に在庫を抱え、経営状況も危ない状況でしたが、初年度から納得のいくお酒を造ることができ、「今年の出来が1番」と思える商品を毎年造り続けている自負があります。

私はワインが好きですが、ワインのような日本酒を造りたい訳ではありません。日本酒は日本酒だと思っています。

「品評会」や「賞」を意識した酒造りをしたこともありますが、「**自分が飲んで美味しいお酒を造りたい**」という気持ちを大切に、自分の好きなようにやらせてもらっています。



酒蔵内はモダンな作りで、川亀酒造の商品が陳列されています。

靖さんが地元に戻る直前に新築されたそうです。

## 地方創生への思いをお聞かせください①

「**酒造りを通して地方創生に貢献できれば**」と思っています。

八幡浜市制の記念商品として、「忠八」という商品を造りました。地元が輩出した偉人である二宮忠八（ライト兄弟よりも先に飛行機原理を発見）を称えたいと思ったからです。

残念ながら同じ二宮姓でも、私は親戚ではないようですが・・・（苦笑）



## 地方創生への思いを語ってください②

当社の商品に、新聞紙で瓶を包んだ状態で販売しているものがあります。実は、日本酒は透明ではなく、少し黄色がかったりなんです。

色味があることをアピールするために透明色の瓶を採用したのですが、透明色の瓶は日光に弱く、保護する必要があります。

そこで、従業員が持ち寄った新聞紙で瓶を包むことにしたのですが、新聞の銘柄が「愛媛新聞」という事がポイントになっています。

当社の販路は県外が5割強であり、東京、大阪での取扱いが多いのですが、「**県外の方が愛媛新聞で包まれたお酒を目にすると、愛媛県の名前が売れるかな**」と（笑）。

愛媛新聞で愛媛  
をアピール！



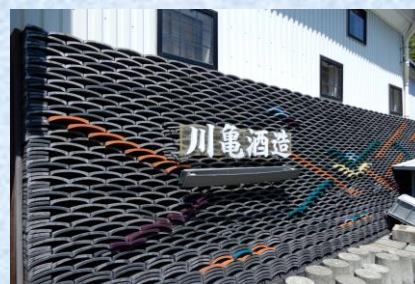
## 地方創生への思いを語ってください③

酒造りを始めた平成13年頃と比較すると、生産量は3倍くらいに増えており、現在の蔵では手狭であるため建替を検討しています。

更に生産量が増えればもう少し人手が必要になるので、「**地元  
の雇用にも貢献**」できると思います。

ただし、会社を大きくするのが目的ではなく、自分の追求するお酒を造ることができる規模でありたいと思っています。

いつかは精米作業も自社で行いたいし、米作りから酒造りを始められると理想ですね。



【瓦でデザインされた玄関前】



【道路向かいにある倉庫】

### <取材後記>

今回は、二宮靖さんから酒造りを通じた地方創生に関する熱いお話を聞かせていただきました。二宮さんはひたすらに美味しい酒造りを追求されており、自分が作ったお酒で愛媛県の県外アピールや雇用創出による地方創生が実現できれば良いと語られておりました。

川亀酒造の近くには、来場者数・四国一の「道の駅・八幡浜みなと」があり、新鮮な農産物のほか、川亀酒造のお酒を購入することもできます。

(川亀酒造の製品は、蔵元でも購入することができます)

石窯ピザや八幡浜ちゃんぽん、海鮮丼などの名物料理がいただけるレストランもお勧めです。ぜひ、八幡浜市を訪れた際には立ち寄ってみてください。

目の前には段々畑の広がる佐田岬半島があり、海と山が織りなす八幡浜市を象徴する景色を堪能することができますよ！

(田内 大輔、田村 公宏、梅田 陽佑 )

掲載している情報は、平成30年6月時点のものです。  
掲載している写真は、同社よりご提供いただきました。

